

航和(平石)など全国大会へ

中小企業クラウド実践大賞 盛岡でも地方大会

全国中小企業クラウド実践大賞・盛岡大会(同大賞実行委主催)は15日、盛岡市清水町の盛岡商工会議所で開

「再生可能エネルギーの先駆けの地・福島」としてソーラーシステムによる太陽光発電所が至る所に作られその広大さはまさに発電(田)地帯、総発電力は3000キロワットアワー余りに達しているという。(カフェジャズ開運橋のジョニー店主)

屋には何冊もの本を置き、1階の図書コーナーはまるで図書館。よく眺めれば目立つのは震災関連本。あすはいよいよ、原発被災地へ！
東京電力福島第一核(原子力)発電所のある大熊町、双葉町は中間貯蔵施設とされ、帰還困難区域を除く全ての



ICT化から介護職の負担を減らした事例を発表する佐々木社長

かれた。クラウド(ネット上で保管するデータ)サービスを活用し、収益アップや経営改善を実現した中小企業や小規模事業者の事例を共有する大会。県内10社が自社の取り組みを発表し、東北総合通信局長賞に航和(平石町)柿木、盛岡市長賞に松月産業(宮城県仙台市)が選ばれた。2社は、2月12日の全国大会(東京)に出場する。自治体や情報通信会社の関係者約40人が出席。盛岡地域の発表者は共立医科器械(盛岡市)、杜陵高速印刷

「同、やよいディライト(同)、信幸プロテック(矢巾町)だった。発表では、業務効率化や売り上げ拡大、働き方改革などへのクラウドの貢献度、社員や顧客へのサービス浸透度などが審査された。介護施設などを運営する航和は、紙で共有していた利用者情報やケアプランなどを「エバーノート(Evernote)ビジネス」で共有。介護ICTソフト「ほのほのソフト」を利用して介護ソフトと連動させ、Bluetooth(近距離無線通信)を使って情報共有の迅速化を図り、介護職の事務負担を大幅に軽減した。28%だった離職率が8%まで減った。佐々木航社長は「介護現場でICT化を実現し、介護者が利用者と接する時間を増やせ」と、サービスの向上にもつなげた実績も示していた。

「タイトルには番号数字を組み込もう」と決意。6本分を順に「爺医の二分」(人生、「刀流」)、「マイ三種の神器」(四足の草鞋)、「五十七・五十七」そして「終の食のすゝめ」と続けられ…。アイデアは完璧だ！が心配もある。賢明な読者は気付くかな？」

寝具製造や布団リフオームのやよいディライトは、クラウドサービス「キントーン(Kintone)」を活用し、顧客情報や日報在庫商談などを場所を問わず把握できるようにした。販売からメンテナンスまでを適切に管理でき、1年後の商談契約件数は昨年比60%増、来店率は2倍まで伸びたと効果を示した。

同大会は昨年始まり2回目。全国5会場で行われる地方大会を開き、各会場から2企業が全国大会に進む。総務大臣賞の企業はICT活用を企業に提案する一般社団法人クラウドデルのセミナーやホームペー

八角病院

二次救急 入院受入病院

TEL (019) 682-0201
盛岡市好摩夏間木70番地190

八角医院

TEL (019) 682-0007
盛岡市好摩夏間木101番地2

医療法人 **日新堂** 理事長 八角 有紀

特別養育
すす
盛岡
TEL